

企業から見たインターンシップ

野村総合研究所 (NRI)



2016年卒向けの就職活動スケジュールが後ろ倒しになったことで、今年は夏だけでなく秋から冬にかけてもインターンシップを実施する企業が増えそうだ。さまざまな顧客の問題発見から解決策を導くまでのトータルソリューションを手掛ける野村総合研究所（以下NRI）もこの秋から冬にインターンシップ実施を予定している一社だ。この時期に学生はインターンシップをどのように活用すべきなのか。NRI人事部の柳本朝史氏と三谷千恵氏に話を聞いた。

もつと多くの学生に就業体験を

就職活動スケジュールが大きく変更となる2016年卒向けの就職活動。それに併せて、今年は秋から冬にかけてインターンシップを実施する企業が増えていくが、NRIは以前から秋冬インターンシップを実施していた企業の一つ。NRI人事部の柳本氏は秋冬インターンシップを実施する理由を次のように語る。「N

目的意識を持つことで、 インターンシップの 参加意義はさらに高まる

R-Iとしては、学生の皆さんに就職活動が始まるまでの期間に就業体験を積むことで、仕事イメージを具体的に今後この活動に役立ててほしいという思いと、夏インターンシップに参加できなかった

学生にもチャンスを広げたいという思いから秋冬インターンシップを実施しています。インターンシップを活用し、働くことについて実体験を通じて真剣に考えることは非常に有効です。今の時期に自分自身を見つめ直し、社会人になるにあたって足りない部分に気づき、残りの学生生活、そして就職活動に臨んでほしいですね」（柳本氏 以下同）

ありのままの業務体験にこだわったプログラム

そのNRIが実施するインターンシップは「経営コンサルティング」と「ITソリューション」の2コース。経営コンサルティングコースでは5日間にわたり、現役コンサルティングの指導のもとで実際のコンサルティングプロジェクトで行う一連の業務を体験してもらう。現役コンサルタントから、業務や成果物についての指導を受けられる貴重な機会といえるだろう。

経営コンサルティングコースの参加者は、実在する企業に関する課題解決に取り組むことになるが、その課題は対象企業が実際に直面しているものや、これから注目が高まりそうなものを現役コンサルタントが議論して設定しているという。それゆえ、課題のリアリティは高く、イ

理系学生へのメッセージ



NRIのインターンシップは包み隠さず、仕事現場のすべてを見せるくらいのスタンスで実施しています。ですから、参加者の皆さんも参加する目的やどうすれば必要なものを得られるかをしっかり考え、インターンシップを最大限に活用してください。社員は前のめりに飛び込んで来てくれる方、挑戦意欲の高い方を待っています！（柳本）



私たちを取り巻く情報は年々増え続けていて、就職活動においてもどんな情報を得ればいいのか、何を信じたいのかの見極めが難しくなっています。インターネットや書籍ではさまざまな情報を得ることができるかもしれませんが、頭でっかちにならないよう、実際に行動を起こして自分の目で見て、見極めることも非常に重要です。その一つの手段としてインターンシップを活用してほしいですね。（三谷）

株式会社野村総合研究所
人事部
柳本朝史／三谷千恵

ンターシップ実施後に同じ内容の相談が企業から寄せられたり、メディアに取り上げられたりすることも珍しくない。

一方、1Tソリューションコースでは2週間、NRIが手掛けるさまざまなプロジェクトに実際に参加し、業務を行うプログラムとなっている。テーマは多岐にわたり、顧客のシステムコンサルティングやシステム設計・開発、新しいデバイスや先端技術を用いた事業企画やソリューション開発など、幅広いプロジェクトに本人の希望を考慮して配属される。

**疑似体験ではなく、
極限までの実体験を追求**

いずれのコースでも「リアルな仕事体験」ができるというNRIのインターンシップだが、同社の言う「リアル」とは、「仕事内容」だけではない。参加者に、職

場の臨場感、もありのままに体験してもらいたいと同社は考えているのだ。

「学生の指導を担当する現場社員に、人事部からテーマの指定や、指導内容の細かい注文は出していません。『若手社員と普段接しているのと同じように指導してください』と依頼するくらいです。NRIらしさや社員の人間性が見えづらくないと考え、型にはめるような調整はあえてしません。また、多忙なプロジェクトに配属された場合、周囲の社員が大変そうにしていることもあるかもしれません。それでも、そういった環境を含めて仕事のやりがい、リアルな職場や社員の雰囲気を感じてほしいと私たちは考えているのです」

NRIが目指しているのは「疑似体験」ではなく、可能な限りの「実体験」なのだ。参加したからこそ実感できる、「NR

1社員の仕事に対するプロ意識を感じられた」、「親しみやすい人間味ある社員が多いと感じた」といった感想を語る参加者も多い。

また、企業や仕事に対する先入観を覆されたという学生も少なくないという。「学生にインターンシップに参加する前のNRIイメージを聞くと、忙しい、ドライで冷静沈着な人が多そうなどと言われるのですが、実際は理系の研究室のような和気藹々とした雰囲気部署もありますし、多様な社員や業務領域の幅広さにも驚かれます」

目的意識を持って参加してほしい

しかしながら、そのような「収穫」は何となくインターンシップに参加しただけでは得るのは難しいかもしれない。固

定されたプログラム内容がないということとは、参加者の意識や行動次第で得られる情報の質と量に大きな差が出てくるからだ。

「貴重な時間を使ってインターンシップに参加するのであれば、目的意識を持って最大限に活用してほしいですね。せっかく参加したのに、指導担当の話をメモして聞いているだけで質問が一つもないと非常にもったいないと感じます。インターンシップを通じて何を得たいのかを自分なりに考え、得るべきものを最大限に引き出して帰ってほしいです。必要以上に遠慮せず、「こんなことについて知りたい」「自分はこう思う」と積極的にアピールしてほしいと思います。インターンシップ期間中の試行錯誤を経て、大きく成長して最終日を迎える学生も多くいます」

インターンシップで有益な情報を持ち帰り持ち帰ることができれば、将来を考えると上でメリットは非常に大きいはずだ。自分は何をやりたいのか、どんな仕事であれば力を発揮できるのか、自分なりの目的意識を持ってインターンシップを活用してみたいかがだろうか。